

「サポカー」「サポカー-S」とは？

政府は、高齢運転者による交通事故対策の一環として、衝突被害軽減ブレーキ（「自動ブレーキ」）などの先進安全技術を活用した一定の運転支援機能を備えた「サポカー」「サポカー-S」の普及啓発に、官民一体で取り組んでいます。2020年までに自動ブレーキの新車乗用車搭載率を9割以上にする政府目標も掲げています。



**セーフティ・サポートカー
[サポカー]**

自動ブレーキを搭載した、全ての運転者に推奨する自動車



**セーフティ・サポートカー-S
[サポカー-S]**

自動ブレーキに加え、ペダル踏み間違い時加速抑制装置等を搭載した、特に高齢運転者に推奨する自動車

サポカー-S の区分 搭載される装置により、さらに3つの区分に分かれます。

 ワイド	自動ブレーキ（対歩行者）、ペダル踏み間違い時加速抑制装置※1 車線逸脱警報※2、先進ライト※3
 ペースアップ+	自動ブレーキ（対車両）、ペダル踏み間違い時加速抑制装置※1
 ペースアップ	低速自動ブレーキ（対車両）※4、ペダル踏み間違い時加速抑制装置※1

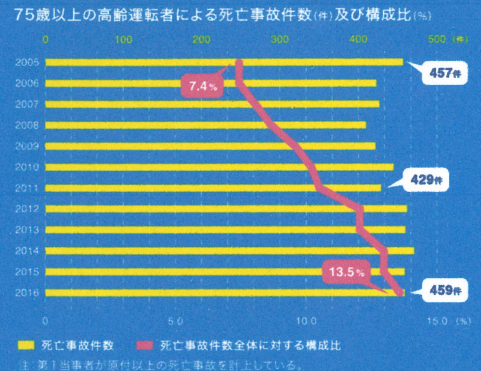
※1マニュアル車は除く。※2車線維持支援装置でも可。※3自動切替型前照灯、自動防眩型前照灯又は配光可変型前照灯をいう。※4作動速度域が時速30km以下のもの。

運転者の事故低減に有効です

死亡事故件数全体に占める
高齢運転者の割合が増加しています。



75歳以上の運転者による死亡事故件数は、近年、横ばいで推移していますが、死亡事故件数全体が減少傾向にあるため、その占める割合は増加しています。2016年中の75歳以上の運転者による死亡事故は、75歳未満の運転者に比べブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故の占める割合が8.7倍高いほか、工作物衝突や路外逸脱等の車両単独の占める割合が高いことが明らかになっています。



事故の発生防止・被害軽減のために開発された「先進安全技術」があります。

自動ブレーキ（対車両・対歩行者）



車載レーダー等により前方の車両や歩行者を検知し、衝突の可能性がある場合には、運転者に対して警報します。さらに衝突の可能性が高い場合には、自動でブレーキが作動します。

危険を予測し衝突を回避、または被害を軽減。

ペダル踏み間違い時加速抑制装置



停止時や低速走行時に、車載レーダー等が前方や後方の壁や車両を検知している状態でアクセルを踏み込んだ場合には、エンジン出力を抑える等により、急加速を防止します。

駐車スペースから出る時などの、誤操作による急発進を防ぐ。

車線逸脱警報



車載カメラにより道路上の車線を検知し、車線からはみ出しそうになった場合やからはみ出した場合には、運転者に対して警報します。

車線を検知して、はみ出しを警報。

先進ライト



前方の先行車や対向車等を検知し、ハイビームとロービームを自動的に切り替える自動切替型前照灯、ハイビームの照射範囲のうち当該車両のエリアのみを部分的に減光する自動防眩型前照灯のほか、配光可変型前照灯があります。

ヘッドライトを自動で切り替え夜間の歩行者などの早期発見に貢献。

先進安全技術はあなたの安全運転を支援しますが、事故を完全に防ぐものではありません。

サポカー、サポカー-Sに搭載されている先進安全技術は、交通事故の防止や被害の軽減に役立ちますが、これらの技術も万能ではなく、条件によっては装置が作動しない場合もあります。装置の機能を過信せず、引き続き安全運転を心掛けて頂きますようお願いいたします。